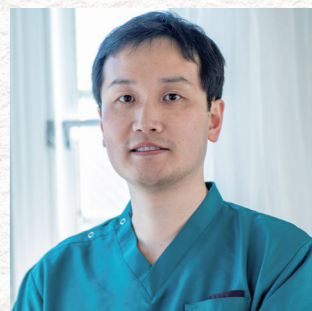


# いぬねこ歳時記

—元気に暮らすために、今できること—



西原 克明 先生  
にしはら かつあき

獣医師。帯広畜産大学卒業。仙台の動物病院「森のいぬねこ病院グループ」院長。これまで数多くの外科手術を執刀し、現在は現代病予防や先進予防にも積極的に取り組んでいる。

ペットと暮らす上で、全ての方の共通の願い、それは「元気で長生きしてほしい」ということ。

でも悲しいことに、歳をとった犬や猫が様々な病気で苦しんでしまったり、また、最期を迎えた時に「もっとできることがあったのでは」と後悔してしまったり：動物病院ではそのような場面を少なからず経験します。

では、ペットが元気に暮らすために、あなたができることはなんでしょう？ ただペットフードを与えて、予防接種をしていれば健康的に暮らせるかといえそうですがありません。ペットは言葉を話さないので体の異常には気付きづ

らいのですが、実はそれだけでなく、病気自体を隠そうとする性質があります。よほど注意をしないと、気付いた時には重症になっていた、ということになってしまいます。ペットの健康を守るためには異常に気付くことも、そして「病気にならないように気をつけてあげること」がとても大切です。

ペットが病気にならないようにする、つまり病気の予防については、狂犬病予防接種、混合ワクチン接種、フィラリア予防薬・ノミとマダニの駆除薬の定期投与などが一般的に知られています。

しかし動物病院で多くみられる病気は、そういったもので予防で

きる病気ではなく、「皮膚病」「耳の病気」「胃腸の病気」であり、さらに高齢のペットに多い病気が「慢性心不全」「慢性腎臓病」「がん」といったものになります。

これらは、今までの予防では防ぐことはできません。さらには治せない病気、再発を繰り返す病気ばかりです。したがって、これまでの予防に加えて、動物病院でよくみるこれら病気への予防も考えてあげたいところです。

現状ではこれらの病気に対する予防方法は、いまだに獣医学では確立されていませんが、最新の研究報告やさまざまな情報、そして筆者の診療での経験を踏まえると、



普段の日常生活の中に予防のポイントがありそうです。そこで今回は、病気になってから何かをするのではなく、ペットが元気なうちからしてあげられるポイントをお伝えします。

## 犬が元気に長生きするための8つのチェックポイント

食事	運動
感染症予防	体調管理・健康診断
デンタルケア	環境・睡眠
社会との関わり	人との関わり

### 食事

人と同じように、健康を維持する上で食事は非常に大切です。ペットの食事はほとんどの方はペットフードを利用されていると思いますが、そんなペットフードですが、どれも同じだとお考えではないでしょうか？ 実はペットフードの中にもさまざまな種類があり、また品質にも差があります。主食に

は「総合栄養食」を選んであげることは必須ですが、それだけでなくライフステージや持病の有無、さらにはペットフードそれぞれの特徴を踏まえて、よりあなたのペットに合ったものを選んであげることが大切です。

### 運動

近年、日本の犬や猫は「肥満」の割合が非常に増えています。肥満は心臓病や皮膚病、関節炎などのリスクを高めるだけでなく、最近では「肥満症」といって、もはや肥満自体が病気として考えられています。健康維持には肥満の予防は絶対条件なのですが、その対策には人間と同じく食事だけでなく、日頃の運動習慣がとても大切です。

### 感染症予防

ペットの予防といえば、狂犬病予防接種、混合ワクチン接種、フィラリア予防薬の定期投与、ノミ・

マダニ駆除薬の定期投与、内部寄生虫駆除薬の定期投与が一般的です。これらの病気はかかってしまうと命に関わるものも多いだけでなく、人間に被害が及ぶものもありますので、しっかりと予防してあげましょう。

特に近年は、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」といった病気が問題になっています。これはマダニから人間に感染し、非常に高い死亡率を持つ恐ろしい病気なのですが、実は犬や猫から人間への感染を疑うケースも発生しています。また、SFTSは人間だけでなく犬や猫、特に猫では非常に高い死亡率が見られていますので、しっかりと予防してあげてください。

### 体調管理・健康診断

犬も猫も人間と生活しているとはいえ、野生の本能が強く残っています。その性質から、ちょっとした体調不良は表に出しません。そのため、病気が隠れて進行して

しまうことも多いので、日頃の体調管理だけでなく、定期的な健康診断によって病気を早期発見・早期治療してあげることも大切です。前述のとおり、動物病院でよくみられる病気や高齢動物に多い病気のほとんどは、完治が難しい病気ですし、中には進行すると治療自体が難しくなるものもあります。なるべく早期発見することで、動物への負担も少ない治療ができますので、ぜひ日常生活での健康チェックと、動物病院での定期的な健康診断を受けることをお勧めします。

(次ページへ)

